

# むすび+

みんなの組合員活動 Vol.167

## ともに育ち 学びあう活動—実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を“むすび”ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

### ～夏休み親子企画特集～ 親子で参加する企画が満載！

夏休みを利用して親子でパルシステム東京を実感してもらおうと、3年ぶりに各所で親子企画が開催されました。さまざまな企画のなかから、その一部を紹介します。



#### エコ・バナナ(バランゴン)でほっこり

7月25日

ほっこり・ゆったり居場所づくり委員会

子どもたちが大好きな「バナナ」を通し、SDGsを考えるきっかけや夏休みの自由研究の参考にと開催。エコ・バナナ（バランゴン）の交易を行う株式会社オルタートレード・ジャパンを講師に迎え、一般的なバナナとバランゴンの違いを学びました。

日本の輸入バナナの94.5%がフィリピン産で、その多くが広大なプランテーション栽培。子どもたちの通学時間にも農薬が空中散布されるなど、市民生活に影響が。一方、バランゴンは自然を守りながら化学合成農薬を使わずに栽培。また、生産者の自立を応援する「民衆交易」商品であることもわかりました。講師は「食べ物を選ぶことでSDGsに貢献できる。どこでどんな人が作っているか想像するきっかけになれば」と話しました。

フィリピンのバナナ栽培の様子を動画で。通学路にあるプランテーション



#### 親子で体験！ キッチンサイエンス♪

7月29日

ふちゅう委員会

毎年好評の、夏休みの調理企画に匹敵する、体験型の企画に挑戦。PLA（パルシステム・ライフアシスタント）を講師に、ハム、歯磨き粉、洗濯用洗剤を使って、パルシステム商品と市販品の違いを学びました。

ハムの上に亜硝酸塩に反応する試験紙を載せ、水を1滴たらす実験では、パルシステムのハムでは反応が出ません。歯磨き後にみかんジュースの味を確かめる実験や、洗濯用洗剤に含まれる蛍光増白剤の反応を見る実験でも、パルシステム商品では反応が出ないことがわかりました。SDGsの取り組みについての説明も聞き、「楽しく学べ、安心感が増しました」の感想も。パルシステム商品が、身体や環境にやさしいことを実感できました。



「商品を購入するときは、原材料表示を確認し、何が使われているかチェックする習慣を」と話す講師

#### 夏休みに親子で学ぶ防災学習会

8月5日

子育てha·ha·ha委員会

9月の防災月間と、夏休みの自由研究にも役立つテーマとして、防災学習会を開催。株式会社丸藤より防災士を講師に、防災の基礎知識と共に、カタログに掲載されている防災用品を試してもらい、災害への備えに役立ててもらうのが目的です。

講義では、自宅で地震に遭遇した場合にどう行動すべきか、発生直後の5分間の行動をマニュアル化して解説。また大雨などによる水害時の避難の注意点や、持ち出し袋や備蓄品の置き場所なども検討しました。

防災用トイレに使用する凝固剤が固まった様子などを見学でき、防災用品をより身近に感じられるように。災害について家族で話し合っておく大切さを再確認できました。



「防災用品に触れたり、解説が聞けてわかりやすかった。家庭でも話し合いたい」と委員長

## 葛飾区ハザードマップを読み解こう

8月8日

金町委員会

荒川と江戸川に隣接する葛飾区で、水害ハザードマップを読み解く講習会が、元消防士で葛飾区地域振興部危機管理課の職員を講師に開催されました。

水害時の避難行動で大切なことは「正しく逃げること」。住んでいる地域や氾濫した河川によって、避難する場所が変わるため、日頃からハザードマップで確認し、家族で話し合い、備えておく。また自宅の浸水状況によって自宅で垂直避難、避難所へ行く、区外へ行くなど、いざという時の選択肢を多く持つておくことも大事だと話します。避難のタイミングを間違えないための警戒レベルの判断方法や、情報収集のやり方を学習したあと、親子で話し合い、マイタイムラインという防災行動計画表を作成。いざという時の心構えもでき、よい学びの場となりました。



ハザードマップを広げ、どの河川が氾濫するのか、家はどの位置にあり、どう逃げれば助かるのかを確認しました

## 親子deわくわく防災お菓子バッグ作り♪

8月11日

わくわくママ&キッズ委員会

パルシステムのカタログが入っていた袋2枚で本体と肩掛け部分を作り、中に好きなお菓子を詰め、いざという時に持ち出せて、子ども自身が自分の命を守れる「防災お菓子バッグ」。夏休みの機会に、家族で参加してもらえばと企画しました。

講師のユーモアあふれる、ていねいな声がけで、幼児も小学生も作業に集中！ それぞれ自分のバッグを完成させました。最後は、バッグに入れたお菓子を出して食べながら、「エレベーターで地震が起きたらボタンは全部押す？」など○×のジェスチャーで答える防災クイズで盛り上がりました。「祝日開催なので、父親も学べる貴重な機会になりました」「帰りに池袋防災館にも寄ります」との感想も聞かれ、親子の防災意識を高めるきっかけになりました。



「夏休みだから友だち親子を誘いました！」「おうちでまた作る！」「防災の勉強になりました」など親子とも大満足！

## 自分だけの箸を作ろう！

8月9日

育児のツボ委員会

今年の夏休み企画は、子どもたちの記憶にも手元にも残ってもらいたいという思いから、折れたバットを再利用する「箸作り」に挑戦しました。講師は(株)兵左衛門です。

「はし」の名前の由来や歴史、気づかぬうちにやっているけれど、マナー違反となる「嫌い箸」の話や、正しい箸の持ち方を学んだあとは、いよいよ箸作りです。手の大きさを測り、ちょうどよい長さにのこぎりで箸をカット。切り口がなめらかになるよう、紙やすりで削り、水性マーカーで思い思いに絵を描いて、世界に一本だけのオリジナル箸が完成です！ 工場で表面加工してもらい、手元に届くのはひと月半後に。箸に関する知識が得られて、親子の夏の思い出が一つ増えました。届くのが楽しみです！



子どもたちも大人のサポートを受けながら、箸をのこぎりで切ったり、紙やすりで削る作業に挑戦しました

## プラスチックゴミ問題親子学習会

8月11日

かぞくの食卓委員会

現在大きな問題になっているプラスチックごみ問題について、子どももわかりやすいようクイズや、実験を取り入れ、環境推進課の職員を講師に、現状や課題、パルシステムの取り組みなどを学びました。

はじめにプラスチック問題のDVDを鑑賞。リサイクルされているはずのプラごみが、海外に輸出されたり焼却されていること、海に流出してマイクロプラスチック化し、魚などが食べ、それを私たちが食べていることなどを知りました。毎年800万tのプラスチックが海に流出し、これが続けば2050年までに海洋中のすべての魚の重さよりプラスチックの方が重くなるとの話にびっくり！ パルシステムの3Rについても確認。「深刻な問題だと実感した」「減らすために、できることから始めたい」など、理解が深まる時間になりました。



葛西臨海公園の砂浜で採取したプラスチックごみを分類したり、浮くプラスチックがあることがわかる実験も